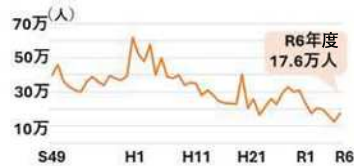


利用状況・収支状況

ピーク時(昭和63(1988)年)の来園者数は60万人を超えていましたが、**近年は10～20万人程度で推移しています。春(3～5月)及び秋(9～11月)に来園者数が増加する傾向にあります。**

■来園者数の推移



園内に社寺などの民有地や5箇所の出入口があり、**動物園エリアを閉鎖して管理することが難しく、入園無料で運営してきた経緯**があります。過去5年間(令和2(2020)年度～令和6(2024)年度)の平均収入額は一時使用料などにより約16万4千円であり、また、支出額は人件費、飼料、維持・修繕などにより約1億9千5百万円となっています。

夢見ヶ崎動物公園の課題

公園施設の**老朽化に加え周辺環境の変化や社会変容による市民ニーズの変化、気候変動への対応が必要**となっています。再整備にあたっては、**オープンスペースの利用の多様化、持続可能な管理運営の仕組み、アニマルウェルフェアや環境への配慮などの視点**を踏まえる必要があります。

●施設の老朽化や不足による課題（部分的に先行整備を実施）

園内のバリアフリー化の不足／動物展示の魅力低下／アニマルウェルフェアに配慮した飼育環境の整備が不十分／駐輪場や駐車場の検討不足など



先行整備をした
パークセンター

動物舎の老朽化

●サービス面の課題

「教育・環境教育」「レクリエーション」に関する公益的なサービスの不足／地域との協働のポテンシャルを活かしたイベントやプログラムの不足／加瀬山の様々な文化財の活用不足／魅力発信事業の不足

●持続可能な管理運営体制の構築に向けた課題

コレクションプランの検討が不十分／飼育のノウハウの継承が不十分/持続可能な管理運営のための財源確保の課題

再整備の基本的な考え方

「いのちを感じる」夢見ヶ崎動物公園

平成30(2018)年 夢見ヶ崎動物公園基本計画
「わくわく ふれあい みんなでつくる動物公園」

令和4(2022)年
夢見ヶ崎動物公園再整備の基本的な考え方

令和5(2023)年～令和6(2024)年
夢見ヶ崎動物公園再整備骨子 「いのちを守る」「いのちの体感」「いのちへの共感」

夢見ヶ崎動物公園は目指すべき将来像「わくわく ふれあい みんなでつくる動物公園」を踏まえ、**市民と利用者が「いのちを感じる」場となるよう再整備を実施します。**



- ・地球環境を大切にする行動へつながる
- ・自然や環境を自分ごととして考えるきっかけ
- ・自分や他者を大切にする気持ちを育てる

加瀬山の**多彩ないのち**を体感できる
施設整備と運営管理を実現

再整備により **"都市が自然と共生する姿勢を示す場、共有する場"**としての**動物公園**を創造します。

加瀬山が持つ、ここにしかない「いのちを感じる」資源



基本方針① 緑と人が出会う



- ・土地の記憶から自然の営みを実感
- ・樹林に暮らす動物・鳥類・昆虫
- ・生きものとの共存を考える機会
- ・身近な鳥獣保護区が住民の誇りにつながる

基本方針② 人と人が出会う



- ・世代の異なる人々との関わり
- ・健康づくりや生きがい創出
- ・伝統や文化など人の営みを実感
- ・歴史と平和の大切さを伝える

基本方針③ 生きものと人が出会う



- ・気軽に飼育員さん、園長さんに出会える環境
- ・動物のリハビリを知り、関われる
- ・都市の中で、様々な動物と出会う
- ・いつでも、何度でも、ゆっくり、じっくりいのちと向き合える



再整備の基本的な考え方

3つの基本方針に基づき、五感を使った「いのちを感じる」プログラムを展開しやすい環境をつくります。

基本方針① 緑と人が出会う

土地の記憶を活かし自然と人の営みを体感できる

いのちを育む加瀬山の緑に親しむ



協働による樹林管理活動 発生材を活用した解説板

里山樹林 整備イメージ

- ・市民協働による樹林地管理の活動を支える施設や休憩場所を設置
- ・日常的な散歩・散策で自然の芽吹きやいのちの循環を感じ、生きものと出会う安全管理や地域の憩いの空間づくり
- ・活動で発生した自然資源を活用し、樹林に息づく生きものや取組を紹介できる解説板

基本方針② 人と人が出会う

他者との交流から自分を知り、協調・協働するすべを考えられる

いのちを大切にする行動につながる



パークセンターの地域活用 子ども達が集う遊具

公園 整備イメージ

- ・来園者や動物が公園内を安全に散歩できる園路、夏の暑熱環境に対応した休憩所などの施設整備
- ・顔となる遊具などを中心として自然と人が集まってくる柔軟な遊びの空間
- ・市民や企業からの意見や寄付を反映した施設整備
- ・広場やパークセンターは夢見の取組の発信や地域との関わりづくりなどに活用が可能な空間とする

基本方針③ 生きものと人が出会う

生きものとの関わりを通して、いのちの尊さや喜び、他者への思いやりを学ぶ

いのちの鼓動に心が動く



いのちを伝えるサインの工夫 いのちを守る取組を身近に感じる施設

動物園 整備イメージ

- ・触るだけではない「ふれあい」を提供する、アニマルウェルフェアを遵守した動物展示、動物や生息環境の情報発信
- ・バックヤードの整備や暑熱対策など、働く環境の充実
- ・ゆっくり観察ができ、居心地よく利便性のある空間づくり
- ・調理場やリハビリ施設の一部が見学できる、いのちを守る取組を身近に感じる施設を設置

■「いのちを感じる」プログラムの例

加瀬山のいのちの歩みとは？

今いる生きもの、昔いた生きもの・植物などを知り歴史と自然にふれる



昆虫教室(広島緑化センター)

加瀬山の自然を五感で感じる

自然の心地良さを五感で感じ、自然の大切さ、保全の重要性を学ぶ



樹林ボランティア(夢見)

動物の得意！を披露見て・聴いて驚き、感動する

- ・人と関りが深いロバが人と一緒に歩く様子を観察
- ・鳥の羽や羽ばたきを観察
- ・動物を観察し、動きや習性に驚き、学ぶ



ロバの散歩(京都市動物園)



バードショー(松江フォーゲルパーク)

食べることは生きること！

- ・エサの準備のお手伝い
- ・食べ物やうんちの違いからいのちを感じる



エサづくり体験(市川市動植物園)

いのちを守る最前線を見学

- ・野生保護鳥獣の観察
- ・職場見学
- ・自分にできることを考える



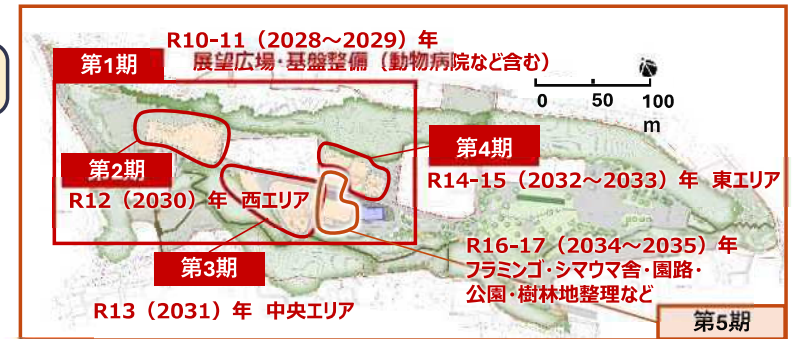
保護鳥獣の観察(猛禽類医学研究所)



ゾーニングと施設配置計画

現状のゾーニングを活かすことで、樹林など環境への負担や造成など整備の負担を軽減します。

■第1～5期 段階整備の計画



里山樹林

緑と人が出会うゾーン

樹林や地域の生きものを観察・実感できる

【再整備を検討する主な施設】

- ① 樹林管理の拠点
- ② 階段・散策路
- ③ 児童公園
- ④ 駐車場



里山体験教室のイメージ

公園

人と人が出会うゾーン

家族と、友人と、地域の人と交流する

【再整備を検討する主な施設】

- ⑤ 「U回路」入口・パークセンター南側
- ⑥ 駐車場からの入り口
- ⑦ 展望広場
- ⑧ エントランスのロータリー
- ⑨ 慰霊塔付近
- ⑩ 芝生広場
- ⑪ 慰霊塔前広場



遊具配置のイメージ



動物園

生きものと人が出会うゾーン

動物園の動物たちと出会い・学び・楽しみ・驚く

【再整備を検討する主な施設】

- ⑫ 広場、動物展示、動物病院、調理室など



動物病院イメージ



動物舎イメージ

⑦ 憩いの拠点

- ・富士山、街への眺望
- ・シンボリックなデザインのトイレやゲート、休憩施設



富士見デッキの眺望（夢見）

⑩ 交流の拠点

ワクワク感を演出するサイン、公園から動物エリアへの誘導サインや案内板



動物モチーフのサイン（のんほいばーく）



エントランスの演出（盛岡市動物公園）

植栽

- ・既存の緑陰を活かしなが剪定を実施
- ・施設や公園利用の支障となる樹木を適切な位置に更新
- ・樹林管理活動で出た発生材の有効活用

動線

- ・通過、散策と“たまり場”のバランスに配慮
- ・安全に楽しみながら歩ける舗装の整備
- ・緊急車両、避難経路などに配慮した舗装、サイン整備

公園全体

- ・園内に散在する歴史的資源や加瀬山の自然の保全
- ・各所に動物・昆虫などのイラスト、樹林管理の発生材を活用した作品などを設置



発生材アート作品（吉野ヶ里遺跡）

⑪ にぎわいの拠点

芝生広場での遊び、舗装広場でのイベントなどのための園路や休憩施設



キッチンカーの出店（夢見）



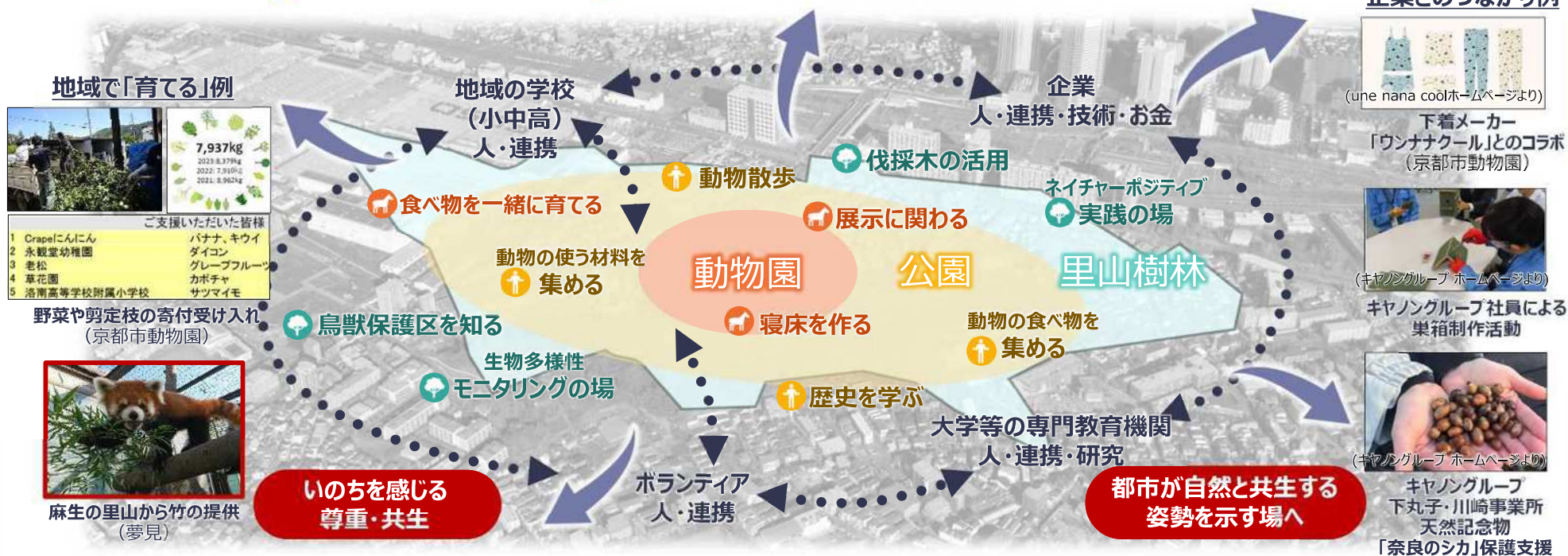
芝生広場（夢見）



地域への波及イメージ

再整備で強化する「いのちを感じる」しかけが、夢見から地域を巡り、多様な主体とそれぞれの資源・得意分野で育ち、良い効果が波及していくことを目指します。再整備にあたっては、協賛や技術提供、実験的な取組を通じて、企業・大学と共に新しい夢見を育てていきます。また、環境や社会貢献のメッセージを発信する場として機能し、都市が自然と共生する姿勢を示す場として地域や来園者に新しい価値を提供します。

🌳 里山との関わり 📍 来園者との関わり・来園者の体験 🐾 飼育との関わり



地域とのつながり例 ※赤枠：既に夢見で取組が始まっています。



動物公園内の循環の例



[illegible]